

高齢者と若年者の交流による地域活性化に関する研究 ～栃木県那須地域を例に～

君山 拓良

【要 旨】

本研究は、栃木県那須地域を研究対象として、過疎地域で生活する高齢者と若者の交流による、有効な地域活性化活動の方策を考察することを目的とした。

研究方法は、地域活性化の成功例や失敗例について先行研究をレビューした後、那須塩原市と那珂川町を対象に地域活性化活動の実態についてヒアリング調査した。その後、先行研究レビューで得られた地域活性化活動の有効策と、調査で明らかになった那須地域での活動との類似点や相違点を分析することによって、那須地域におけるより効果的な地域活性化活動の方策を考察した。

その結果、地域活性化活動を成功させるには、自治体や各団体、住民の活性化活動に対する当事者意識や危機感、地域活性化活動の統率機関が必要であること、また活性化活動を成功させるという強い意志がなければ有効ではないこと、さらには地域が一丸となってその活動を発信、浸透させていかなければならないこと等を明らかにした。

【講 評】

人口減少社会に突入している我が国において、過疎化する地域がどのように存続できるかは、非常に大きな問題となっている。右肩上がりの経済が終わり国自体に余力がなくなった現在においては、これまでと同じような政策は通じない。本稿は、地方で深刻化する過疎の問題について、これをどう克服するかについて取り組んだ意欲的な内容と思われる。欲を言えば、これまでの地域活性化の事例は成功例よりも失敗例の方が圧倒的に多いとも推量できるため、失敗例の分析も比較論として一定程度以上あった方が望ましいとも思われる。しかしながらこのような若干の指摘事項を差し引いても、本稿は十分に優秀論文にふさわしいレベルの内容と考える。